



## PACIFIC CARGUY RACING

### 2022 AUTOBACS SUPER GT Round6 SUGO GT 300km RACE REPORT

カテゴリー	:GT300class
エントラント名	:PACIFIC CARGUY Racing
マシン名	:PACIFIC hololive NAC Ferrari
カーナンバー	:9
タイヤ	:YOKOHAMA
ドライバー	:木村武史、 Kei Cozzolino
レースクイーン	:Pacific Fairies
開催日	:2022年9月17日-18日
会場	:スポーツランドSUGO (一周3.586 km)
天候	:9月17日 ☁ (DRY) 9月18日 ☁/🌧
気温	:9月17日 24-26℃ 9月18日 28-25℃
路面温度	:9月17日 30-34℃ 9月18日 36-28℃
参戦車両数	:GT500/15台 GT300/27台 合計42台
Best Lap	:1'17.737
Q1(A Group)	:1位/14台
Q2	:16位/16台
決勝	:リタイヤ/27台 (No time)

## PACIFIC hololive NAC Ferrari

追い上げに期待かかるも  
追突を受けまさかの0周リタイア



### 事前情報

今回はレギュラーの300kmレース。そしてドライバーもレギュラーの木村武史とケイ・コッツォリーノというコンビでこのラウンドを戦うことになった。今回もサクセスウェイトは24kgのままで、アップダウンに富むSUGOではあるが、走行には大きな影響はないようだ。またコーナリングマシンであるフェラーリ488 GT3にとっては、上位でゴールできるチャンス。ここSUGOはコース幅が狭くタイトなターンも多く、さらにコース長が短いこともあり混雑してアクシデントも多く“魔物が棲む”と言われている。そのようなコースで最後まで生き残り結果に結びつけたいところ。

予選日17日の朝は気温25℃で晴れたり曇ったりの天気。9時25分から公式練習が行われ、ここで木村が29周、ケイが27周を走行し、ベストタイムはケイが3周目にマークした1分19秒000でトップの車両と0秒679差の4番手につけた。

### 公式予選：Q1 Aグループ



2022.9.17	
14:30-14:40	
ドライバー	:Kei Cozzolino
気温	:26℃
路面温度	:31℃
順位	:Aグループ1位
Best Lap	:1'17.737
Lap数	:4Lap
走行距離	:14.344km

#### ■堂々のAグループトップでQ2進出

GT300クラスの予選は、シリーズランキングにより14台のA組、13台のB組に分けられ、PACIFIC hololive NAC Ferrariは台数の多いA組に区分された。14台のうち上位8台に入れば、Q2への進出になる。セッション開始7分後の14時37分、ケイが3周目にマークしたタイムは1分17秒737、その時点でトップにつけた。その後1分17秒台に入れる車両はなく、トップタイムでQ2への進出を決めた。「やはりトップタイムはうれしいですね。路面温度も夏場から下がって見事にはまったという感じで速かったです」とケイは決勝への自信をのぞかせた。

## 公式予選 : Q2



2022.9.17  
15:23-15:33  
ドライバー :木村武史  
気温 :25℃  
路面温度 :34℃  
順位 :16位  
Best Lap :1'19.893  
Lap数 :6Lap  
走行距離 :21.516km

### ■ 1分19秒台に入れるも16番グリッドが確定

Q2は15時23分にスタート。木村は2周でタイヤに熱を入れてからアタックを開始。3周目に1分20秒304で11番手につけ、次の周には1分20秒を切る1分19秒893へタイムアップした。しかし木村より速いタイムをマークした車両ばかりで結果的には16番手となり、決勝のグリッドがここで確定した。しかし予選後の再車検の結果、トップタイムを記録した車両がサクセスウェイトの重量違反ですべてのタイムが抹消され、グリッドはひとつ繰り上がり15番グリッドからのスタートとなった。「1分19秒台を出せて朝の公式練習から1秒以上詰めていけたのは評価できると思います。スタートは僕が担当して後半の追い上げに期待したい」と木村は笑顔で答えた。

## 決勝



2022.9.18  
14:05-16:04  
第1スティント :木村武史  
気温 :27℃  
路面温度 :33℃  
順位 :リタイヤ  
Best Lap :-  
Lap数 :0Lap  
走行距離 :0km

18日は朝から曇り。決勝前に行われた20分間のウォームアップ走行ではケイから木村に交代して9番手のタイムをマークした。またひとつ前のグリッドを確保していた4号車AMGのドライバー谷口選手が虫垂炎となり決勝レースに出場できなくなり、これによりPACIFIC hololive NAC Ferrariのグリッドはひとつ繰り上がり14番手となった。

気温27℃、路面温度33℃の14時にパレードラップが始まり、14時5分に決勝レースがスタートした。ステアリングを握るのは木村で、短いスティントでケイに交代し追い上げを狙う作戦だ。しかしタイトな1~2コーナーを過ぎ、左へのターンとなる3コーナーで、木村は後方の車両から追突されコースアウト。リヤからタイヤバリアにクラッシュして、これでアツという間にレースを終えることになった。わずか10数秒で魔物の餌食となったSUGOラウンド。幸い木村には怪我はなかったが、心に大きなダメージを受けることになった。

## COMMENT



### エントリー代表 神野元樹

「フリー走行予選共に良い手応えがあっただけに、スタート直後に追突され、リタイヤとなってしまい本当に残念でした。幸い木村選手に怪我が無くて本当に良かったです。残り2戦最大限のパフォーマンスを発揮し、確実にポイントを獲得していきたいと思います。応援、有難う御座いました。」



### 木村武史

「スタート直後の接触でリタイヤとなり誠に残念でした。その後、天候に翻弄された難しいレースでしたが、故にフェラーリの持味を発揮出来たかも知れないと思いました。次戦、オートポリスは昨年ポイントを獲得しているので頑張りたいと思います。」



### Kei Cozzolino

「フリー走行からマシンとタイヤの相性が抜群で、今シーズンで最も手応えを感じた1戦でした。リタイヤは残念でしたが、残りの2戦では我々のパフォーマンスを発揮し、必ず上位を狙います。」

## PARTNERS



## SPONSORS

